

私たちの仕事は、特別な日を創ることです

CERESPO NEWS

vol.
86

November
2016

セレスポ

セレスポ・ニュース
平成28年11月発行
第86号

セレスポ
Pick Up

リオデジヤネイロ
パラリンピック視察報告会

大新宿区まつり

「ふれあいフェスタ 2016」

新宿区では10月に「大新宿区まつり」を開催。
期間中は区内各地で約30のイベントが行われています。
ふれあいフェスタは新宿区が主催するイベントです。



大新宿区まつり「ふれあいフェスタ2016」

新宿区の 多彩な魅力 と ふれあう一日



今年で37回目となる「大新宿区まつり」が開催されました。新宿区内では10月に例大祭、伝統行事、地域祭りなど約30の関連イベントが行われ、その中でも「芸術天国」と「ふれあいフェスタ」というイベントは新宿区が主催し開催されます。今回は、セレスポに運営を任せていただいた「ふれあいフェスタ」の様子をご紹介します。

大新宿区まつりの期間中は毎日イベントが開かれます

10月16日、高田馬場駅からほど近い都立戸山公園で「ふれあいフェスタ2016」（主催：新宿区・大新宿区まつり実行委員会）が行われました。新宿の多様な文化や産業、区民の活動等にふれることで区民と来場者の連携や交流を目的とした新宿区最大の区民まつりです。当日は区内で活動するNPO法人や団体、地方の自治体などが集まり、さまざまな交流の輪が生まれました。会場には複数のス

テージが設けられ、区内で活動する和太鼓やダンスサークルなど、バラエティ豊かな団体がライブを行い、6万6千人もの人でにぎわいました。

「大新宿区まつりの期間中は、毎日イベントが開かれます」（新宿区文化観光産業部）

新宿の秋を彩る風物詩「大新宿区まつり」は、昭和55年に当時の商工観光祭りや各地域の祭りを踏まえて、実行委員会が立ち上げたことが始まり。行政・民間・住民の「新宿のまちを盛り上げていきたい」という共通の想いから、さまざ



ステージではフラダンスや和太鼓などの練習の成果が披露されました。

Interview

視点とノウハウから経験と実績を感じました

「ふれあいフェスタ」の運営をお願いするにあたり、イベント会社様など10社からプロポーザル方式で企画・運営の提案を受けました。審査会場で企画をプレゼンしていただき、もっとも評価されたのがセレスポさん。企画のほか、警備や運営体制に経験と実績を感じるものが多い点が委員から評価されたようです。ふれあいフェスタ当日の会場設営から事務局の運営、フライヤー製作でも力をお借りしました。セレスポさんとお仕事をする中で、さまざまな対応や視点でこれまでの“経験”を感じました。例えば、調理場を兼ねたコンテナハウスでは排

水を考えて傾斜をつけたり、段差が急な箇所には踏み段を用意してお年寄りに配慮したり。こうしたノウハウを惜しみなく提供してくれました。また、担当いただいたディレクターと一緒にふれあいフェスタを盛り上げようと親身に相談に乗ってくれる姿勢は、とても頼りになりました。ふれあいフェスタを含めて「大新宿区まつり」は長年開催しており伝統があります。今後も伝統を守りながら、時代に合わせてトレンドやオリジナリティも出して行きたいと考えていますので、今後とも思わず唸るような御提案をいただけたら嬉しいです！



新宿区文化観光産業部
文化観光課文化観光係
諏方 良祐（すわ りょうすけ）さん



パーフェクトはとれるかな？

まな主体が一丸となって、それまでの伝統を生かしながら現在まで続いています。時代が変わり協賛するイベントも増え、開催の規模は年々大きくなり、現在は約1ヶ月のまつり期間中、毎日区内の各所で関連イベントが開かれています。

参加者や来場者同士が交流し、新宿区の魅力を体感する

「ふれあいフェスタは、区民、地元団体、友好都市など、参加団体や来場者の連携と交流を目的とした区民まつりです。例えば、新宿区との友好提携都市でもあり、毎年参加いただいている長野県伊那市は、販売品のひとつに地元で栽培したお花を持ってきてくださいます。毎年この花を楽しみに来場される区民もいらっしや、普段はなかなか会うことができない伊那市の方とお話ができる。これがふれあいフェスタの醍醐味のひとつです」(新宿区文化観光産業部)

今年は石川県白山市、群馬県沼田市、岐阜県下呂市など、地方から多くの自治体が参加しブースを出していました。現在、公園のキャパシティの都合上、新規

に出展するには制限がありますが、より多くの方に参加してもらえよう、二年ほど前からステージプログラムの一部を公募制に切り替えたそうです。日々の練習の成果を発表できる場として、年々応募数も増加。今後は出展ブースの一部も公募制にすることも検討していると言います。

ブースでは豚汁や新鮮なお魚、できたてのお団子や地方の特産品などさまざまな“食”が楽しめたほか、木工体験や起震車、ミニSLなどの“アトラクション”も用意。現在、新宿区早稲田南町に建設中の新宿区立漱石山房記念館にちなみ、夏目漱石にまつわる情報を発信し、区民が改めて新宿の魅力を発見できるコーナーもありました。

会場全体が、参加団体や来場者の“交流”を意識した、“ふれあえる”お祭りであることを感じ取れました。来年も開催する予定ですので、ぜひ足を運んで新宿の多彩な魅力にふれてみてください。

EventData

- 2016年10月16日 10:00~16:00
- 来場無料
- 都立戸山公園・大久保地区
JR高田馬場駅から徒歩10分、東京メトロ副都心線西早稲田駅から徒歩6分
- 大新宿区まつり実行委員会事務局
〒160-8484 東京都新宿区歌舞伎町1-5-1
TEL 03-5273-4069



REPORT

株式会社セレスポ
高田真一(たかだしんいち)
来場者の笑顔を守るため
安心安全を最優先に

「ふれあいフェスタ」は区民が交流するイベントです。だからこそ「安心安全」を第一に考え、警備員やスタッフの方には見回りからゴミ拾い、自転車の整理など細かくお願いさせていただきました。イベントは一回の事故がイベントの中止などにつながってしまいますので、安心安全は最優先で配慮しなければなりません。

今回は区民の皆さんが楽しめるイベントをご提案しました。来年オープンする区立漱石山房記念館にちなんだブース、親子で楽しめるなりきりファッションイベント、海外の方が多い区だからこそ世界の楽器を集めるなど、若い方にも来場いただけるよう工夫も凝らしています。

私たちは、イベントの成功に向けて裏方として支える役割も多くありますが、とてもやり甲斐がある仕事です。イベント中、迷子が親御さんに会えたとき、スタンプラリーで子どもたちが「全部集まった!」と喜んでいるとき。忘れ物を届け御礼の手紙を貰ったこともあります。

無事にイベントが終了し、会場が元の姿に戻ったことを確認したあとホッとします。新宿区役所の方、警備員やスタッフ、パンフレットのデザイナー、台本を作るライター、準備段階で手伝ってくれた同僚など皆さんのおかげで安全に終わらせることができました。来年も安心安全を第一に楽しいイベントをご提案したいと思います。



セレスポ
Pick Up

リオデジャネイロ・パラリンピック 視察報告会



コーポレートデザイン室

10月6日(木)、株式会社セレスポ本社にて、サステナブルイベント研究所が中心となりリオデジャネイロ・パラリンピックの視察報告を行いました。同研究所では、イベントに関わるさまざまな立場からサステナビリティ(持続可能性)について研究を進めています。今回はリオデジャネイロ・パラリンピックをサステナブルとユニバーサルの視点から捉え、現地で得た情報や肌感覚として持ち帰ってきたことを報告しました。

報告はパラリンピックに関する基本的な説明からはじまり、各会場の位置関係やアクセス、会場周辺の盛り上がりとそれ以外の地域の温度差、さらに現地の治安など多岐にわたりました。

ロンドン大会との比較、東京の都市環境との比較を交えて行われた報告はリオの実情や東京大会への想像を駆り立てました。開会式や各競技の演出についてはメディアを通じて広く伝えていくものと現地にいるから伝わることのバランスに触れ、スタンドも巻き込んだ演出の実例

や課題など、その場に居たからこそ気づいた報告など、東京でも生かせる事例が多々ありました。

その他にも会場の設営方法や看板・バナーなどによる広告の掲出方法、そして来場者を飽きさせないために用意された



撮影スポットやボランティアによる盛り上げなど、ハード・ソフトの両面からさまざまな事例も紹介。市内各地で行われた関連行事や視察中に起きた小さなハプニングなども交えた解説など終始リラックスした雰囲気でも報告会は進みました。

今回の視察テーマの一つでもある「サステナビリティ」では、自然と楽しめる

取り組みが多かったことに触れました。人に伝えやすい取り組み例として、表彰式ではお馴染みのメダリストに送られる「生花」が「記念オブジェ」に変更され、その場限りの演出で終わらないメディアが紹介されました。バナー広告などを代表とした一時的な装飾費用とその効果の関係を、他のイベントの環境効率データを用いて「イベントの持続可能性」を具体的に解説しました。

もう一つのテーマである「ユニバーサル」については、会場では主に「車いす利用者」を中心に対応を行っていた様子、スロープ、観戦用車いす席の配置や対応方法、電動車いすのチャージスペース、案内所での工夫などを例に紹介されました。

開催前は費用や来場者数、現地の治安などさまざまな不安要素があげられていたリオデジャネイロ・パラリンピックでしたが、今回の報告会を通して100点満点ではないが、それを人の力で補うことで十分満足できる大会だったという事が伝わってきました。

12月の
イベント

2016年12月13日(火)
サステナブルイベント導入セミナーを開催

イベント分野におけるサステナビリティの概念、事例の紹介とワークショップを開催します。

場所：東京ミッドタウン カンファレンス

参加費：無料(定員50名)

電話：03-5974-1111

申し込み：<http://eventregist.com/e/pij161213>

発行 発行日：平成28年11月20日

発行元 株式会社セレスポ
(CERESPO CO.,LTD.)
〒170-0004
東京都豊島区北大塚1-21-5(本社)
TEL：03(5974)1111
FAX：03(5394)7651
<http://www.cerespo.co.jp/>

編集 山川 謙(yawn)
記事 コーポレートデザイン室
デザイン ジッピーデザイン

編集後記

今月からセレスポ News をリニューアル。いままではセレスポが協力させていただいてきたイベントの情報を毎月お届けしてきましたが、当日の写真と開催情報の記載だけでしたので、その魅力をお伝えできていないという感覚が強まってきました。イベントの魅力はどこから来るのか……魅力的なイベントとして、記憶に残っているものについて、当日の光景や企画制作の状況、後日の振り返りに自慢話や苦労話など、さまざまな場面を浮かべていきました。そこには必ず担当者のさまざまな表情があります。イベントの魅力を伝えていくために、その源泉となる担当者の熱量や思いが伝わるものを創ろうと考えるようになりました。

リニューアルに際して、打ち合わせの合間、ご飯を食べながらざっくばらんに飲みながら多くの方に意見をうかがったことは、とてもこのフォーマットでは収まりきれないほど……取材が始まりレイアウトが決まり、原稿が揃い、完成が近づいていくにつれ、不安な気持ちもそこそこに「いよいよ！」という気持ちが高まってきました。

リニューアルしましたがまだまだ手探りの状態。常に未完成のニュース媒体としてイベントに関わる人の気持ちをお伝えしていこうと思います。これからもお楽しみいただければ幸いです。